

< あなたの治療について >

婦人科-PLD-卵巣-q4w

今回の治療は、PLD療法という治療法で、ドキシル(PLD)という注射薬で治療を行います。腫瘍の増殖を抑えるお薬です。

治療全体の流れ

今回の化学療法は4週間が1コースとなっています。各コースの1日目に点滴を行います。この治療を4週間(28日間)ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~28日目
	グラニセトロン デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分		お休み
	ドキシル (抗がん剤) 50mg/m ²	点滴 約2時間		

点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってしまる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

起こりやすい副作用について(頻度20%以上)

ドキシルについて

白血球減少・好中球減少・リンパ球減少・赤血球減少・ヘモグロビン減少・血小板減少
悪心、食欲不振　手足症候群　口内炎　血中LDH増加・血中アルブミン減少　発疹
疲労　体重減少

特徴的な副作用について

ドキシルにおける

心筋障害

「息切れがする、咳き込む、急に胸が痛む、脈が乱れる、めまいがする」などの症状

infusion reaction

「ほてり、潮紅、胸部不快感、呼吸困難、恶心、熱感、背部痛、頻脈、そう痒症、鼻漏、腹痛、動悸、血圧上昇、顔面腫脹、頭痛、悪寒、胸痛、胸部及び咽喉の絞扼感、発熱、発疹、チアノーゼ、失神、気管支痙攣、喘息、無呼吸、低血圧、息切れ」などの症状

* infusion reactionの発現の危険性を最小限にするため投与速度は1mg/分を超えないようゆっくり点滴します。

肝機能障害

「発熱(38~39℃)、ぶつぶつ様の発疹、食欲がなくなる、気分が悪くなる、下痢になる、しだいに強くなる全身のだるさ、皮膚や白目が黄色くなる、体がかゆい」などの症状

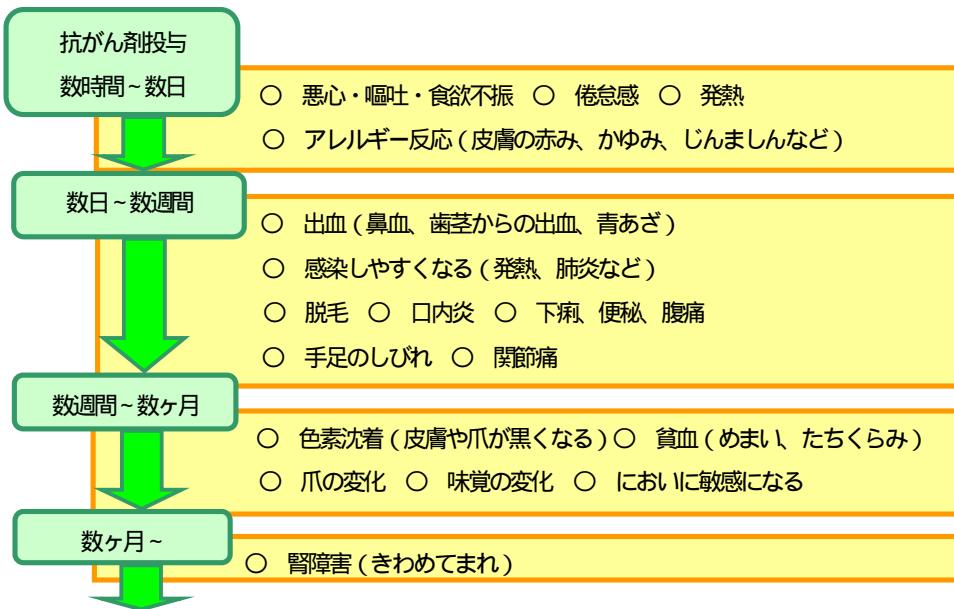
* 上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

副作用の発現時期の目安

* この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体质により個人差があります。



副作用の対策について

吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【ドキシル】

<心筋障害>息切れがする、せき込む、急に胸が痛む、脈が乱れる、めまいがする

<骨髄抑制>発熱、寒気がする、のどが痛む；口の中に白い斑点ができる；手足に赤い点（点状出血）または赤いあざ（紫斑）ができる、出血しやすい（歯ぐきの出血・鼻血など）；水のような下痢、腹痛；口内炎；通常の生活をしていてだるさが続く、ちょっとした階段や坂で動悸や息切れを感じる、顔色が悪いといわれる

<infusion reaction>ほてり、潮紅、胸部不快感、呼吸困難、恶心、熱感、背部痛、頻脈、搔痒症、鼻漏、腹痛、動悸、血圧上昇、顔面腫脹、頭痛、悪寒、胸痛、胸部及び咽喉の絞扼感、発熱、発疹、チアノーゼ、失神、気管支痙攣、喘息、無呼吸、低血压、息切れなどの症状

<手足症候群>腫脹、疼痛、紅斑、手足の皮膚の落屑を特徴とする手掌・足底の皮疹

<口内炎>熱い食物、冷たいもの、オレンジジュースなどがしみる、口の中があれて痛い

<肝機能障害>発熱（38～39℃）、ぶつぶつ様の発疹、食欲がなくなる、気分が悪くなる、下痢になる、だるさ、皮膚や白目が黄色くなる、体がかゆい

<間質性肺疾患>息切れがする、息苦しくなる；から咳が出る、発熱

<肺塞栓症>突然、息が苦しくなり、胸骨（胸の中央の骨）の下に不快感を覚える。脈が速くなる。

<深部静脈血栓症>片方のふくらはぎが赤く腫れたり、ふくらはぎを押すと痛む、急に息苦しく感じたり、胸苦しさを感じる

上記のほかにも副作用が現れることがあります。

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。